

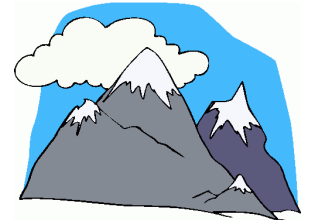


学校だより

おい大空

平成 28 年 12 月 5 日
佐久平浅間小学校
NO. 8

11 月末には突然の大雪に驚かされました。雪の降る中、見守り隊、保護者の皆さまが子どもたちの通学路の確保や安全確保に奔走して下さっている姿がありました。本当にありがたいことです。これからは日没も早まり一層交通安全への取り組みが大切になります。今後とも皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。



さて、平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。本校 6 年生の状況をご覧ください。ご覧になられてご質問やご意見のある方は、学校へ遠慮なくお寄せください。

「全国学力・学習状況調査の結果から」

全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本校児童の学力の実態の分析を行いました。「おい大空 8 号」は、この調査の結果から本校児童の学力について、わかったこと、学校や家庭で改善していくべきことを特集してお知らせします。

1 学力調査の結果から

- (1) 国語 B・算数 A・算数 B は、全国、長野県の平均値をやや上回りました。このことから、基礎基本となる知識や技能、思考力・判断力・表現力がバランスよく伸びていると考えられます。特に、長い文章にまとめて回答する問題についてよい結果が見られました。
- (2) 国語 A（主として知識）は、全国や長野県の平均とほぼ同じでした。しかし、低学年で学習する漢字やローマ字などについてはやや下回った箇所もあり、それぞれを学習する学年のうちに、しっかりと身につける必要があることがわかりました。
- (3) 算数では、B の問題の解き方を説明することは、全国や県に比べて力がついています。

<国語>

○記述問題に対する意欲は高く、示されている内容から重要な点を捉えたり、適切な分量でまとめたりすることが得意な児童が多いです。これは、「書く」ことの指導に力を入れていることや、読書量の多さ、図書館の利用時間の長さが高ことからきていると考えられます。

△漢字やローマ字の読み書きについてしっかりと身につけていない児童が多くいました。これは、繰り返し復習をして身につくまでやることや、学習した学年でしっかりと身につけることに課題があると考えられます。（例：親しい（2年）、ローマ字（3年））

<算数>

○問題の解き方を説明することは比較的力がついています。授業の中で説明をすることやノートに書くことを大切にしていることとの関連が考えられます。

△質問の意味をしっかりととらえて式に表すことや、図形の性質や関係性についての理解に課題が見られます。

<学校では、次の点に力を入れて取り組みます>

- ① 自分の考えを書いたり、問題の解き方を説明することができる子が多いので、さらに友だちと話し合ったり、説明し合ったり、教え合ったりする活動を積極的に取り入れます。
- ② できたこと、わかったことの確認をする時間を多くします。(復習・家庭学習 など)
- ③ 学級(学年) みんなで協力してやり遂げたり、自ら計画をたてて、調べたことを発表したりするような子どもたちが意欲的に活動できる学習を積極的に取り入れます。(学級の宝物)

<家庭と学校で、学習に向かうための素地づくりをしましょう>

- ① 思ったことを自由に語り合えるために・・・

○できたこと、わかったことを認め、子どものやる気を応援しましょう。

○相手を思いやり、認める言動の大切さを指導しましょう。

人を馬鹿にしたり、からかったりすることが、人間関係作りの大きな壁になります。

- ② 復習(家庭学習)の確認をしましょう。

家庭では・・・宿題の取り組みの確認をしましょう。

学校では・・・宿題の確認、学習後しばらく経った頃の繰り返し学習を意識して行います。

- ③ みんなでできることを喜んだり、失敗から学んだりできるような雰囲気をつくりましょう。



2 学習状況調査の結果から

- (1) 佐久平浅間小学校の子どもたちは、家庭学習を計画的に行える子や読書量の多い子の割合が多く、400字詰め原稿用紙2～3枚に感想文や説明文を書くことに苦手意識がない子が多いことがわかりました。
- (2) テレビやゲーム・インターネットに触れる時間が少ない児童ほど学習した内容が身につけていることがわかりました。
- (3) 問題を解く時、あきらめず、粘り強く取り組むことができるようになることが課題です。

<6年生の生活の様子からわかったこと>

○家庭学習を計画的に行える子が多く、読書量が多いことがわかりました。また、長い文を書くことに抵抗のない子が多いです。このことが、学習意欲や関心を高めたり、自分の考えを比較的長い文章にまとめたりする力につながっていると考えられます。

○TV・ゲーム・インターネットに関わる時間が、他校に比べて少ない傾向があります。つまり、それらのことに触れる時間が短い子ほど学習の成果が高く、触れる時間が長い子ほど、学習が身につけていないといえます。これは、本校だけでなく、全国的に見ても同様のことが言えます。

△物事を最後までやり遂げたり、粘り強くできるまで取り組んだりすることが課題です。

△家の人と学校での出来事について話をする子が、全国や県よりもやや少ないです。

△学力調査の無回答がやや多く、問題に答えるペースがのんびりしていることがわかりました。

3 さらに子どもたちの力を伸ばすために、家庭と学校で取り組みたいこと

学力を伸ばすためには、基本的な生活習慣を身につけること、みんなが気持ちよく生活するための人との関わり方を身につけることが大切です。また、自己肯定感の育成や将来を考えることができる子どもたちを育てることも大切にしていきたい点です。

- ① 起床や就寝の時間をきめ、朝食をしっかりと食べさせましょう。
- ② よいところをほめて伸ばしましょう。
- ③ 学校や社会のきまりが守れるようにしましょう。
- ④ 家の人と学校での出来事について話しましょう。
- ⑤ 将来への夢がもてるようにしましょう。

